

科学技術の潮流

JUST研究開発戦略センター

102

や累計318社のIT「技術コンセプトの実験的な証明」からレベル8「システムの完成」まで、限られた資源を最大限効率的に活用するおよび検証」である。ために、多角的・戦略

ハイテク中小

近年、台湾の科学技術イノベーション力が世界から注目されている。最先端半導体製造拠点であり、昨年から続くコロナ禍ではデジタル民主主義の浸透によるパンデミック対策が最も成功した事例の一つとして脚光を浴びた。その中心的な役割を果たしている組織の一つが、公的研究開発機関である台湾工業技術研究院（ITRI）である。

ITRIは1973年に台湾經濟部（日本



科学技術振興機構（JUST）研究開発戦略センターフェロー（海外動向ユニット） 張 智程

台湾生まれ、京都大学博士（法学）。労働市場や科学技術イノベーションをめぐる法政策研究に従事し、京大大学院法学研究科助教、米ハーバード大学フェアバンク研究センター客員研究員、政策研究大学院大学台湾フェローを経て、19年秋より現職。

ITRI 台湾のイノベーションを支える

策動向把握③10年後の判断して次世代の重点研究開発課題を抽出した情報網を通じて産業界の研究開発需要を的確に把握できている」と、副院長の張培仁氏は分析している。

2030技術戦略ロードマップ (2030技術策略與藍圖)	
重点分野	要素技術
スマートリビング (Smart Living)	<ul style="list-style-type: none"> 個人化されたデバイスとサービス 自動運転 スマート産業とサービス
品質の高い健康生活 (Quality Health)	<ul style="list-style-type: none"> スマート医療 健康と介護
持続可能な環境 (Sustainable Environment)	<ul style="list-style-type: none"> 循環型経済に資する技術 スマート製造技術 グリーンエネルギーと環境技術
スマート化を可能にする技術 (Intelligentization Enabling Technologies)	<ul style="list-style-type: none"> 人工知能(AI)技術 次世代半導体技術 次世代通信技術 サイバーセキュリティとクラウド

ITRI公表資料に基づき筆者が作成

2020年11月、ITRIは今後10年間の「2030技術戦略ロードマップ(2030技術策略與藍圖)」を公表した。デジタル変革(DX)から超高齢化社会、グリーンテクノロジーなど世界共通の研究開発トレンドに乗る一方で、引き続き最先端半導体製造拠点の強みを生かして、台湾を世界で最もイノベーション的なテクノハブとすることを目指している。

(金曜日掲載)